〔論文〕

領域「言葉」「表現」におけるICT[1]利用に関する考察
―Covid-19の影響下における朗読動画制作の過程から―

日　高　由　貴

1．はじめに

2020年２月ごろから感染が拡大したCOVID-19による影響で、絵本の読み聞かせ会や、紙芝居のイベントなど、大人数が集まる企画が次々と中止になり、大学における授業も、分散登校や、オンライン授業への転換などが余儀なくされた。本動画制作は、そんな状況であった2021年４月ごろに発案されたものである。

当初、いつまで続くかわからない感染状況の中で、窮屈な思いをしている園児たちや保護者の方々に、すこしでも楽しいもの、非日常を感じていただけるものを届けられないだろうか、と考えたのが発案のきっかけであった。「楽しい行事がすべて中止になってしまい、外出もままならないので、せめて家で絵本を読んであげたいが、保護者のほうも仕事にイレギュラーなことが増えて大変で、なかなか手がまわらない」という、子どもを持つ友人たちの話を聞いたことも、そのきっかけのひとつである。

そこで、大人数で集まらなくても、自宅で視聴してもらえるような、朗読動画の制作を考えた。また、筆者が、以前、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のラジオ朗読劇[2]の制作に関わった経験から、朗読だけなく、音楽や絵画も加えることで、より視聴者に楽しんでもらえるのではないかと考えた。アニメーションではなく、視聴者が音から聴いた世界を拡げてゆくなかに、ひっそりとよりそってくれるようなしずかな絵。音楽も、一部始終流れているのではなく、できるだけ言葉の持つ力そのものを伝えられるような、言葉と音楽と絵が、それぞれ自分の足で立ったうえでひとつの世界を織りなしているような、奥行きのあるものがつくれないだろうか。そんな思いから、同じ総合保育学科で造形を教えておられる柴田精一先生にもご協力をお願いした。音楽を、作曲家でピアニストの河野多映先生、動画編集をウェブディレクターの林トモコさんに依頼し、動画は、2022年３月の完成を目指して、現在編集作業を行っている[3]。

動画の題材は、新美南吉の「手ぶくろを買いに[4]」とした。ソーシャルディスタンスが叫ばれるなかで、「他人は信用できない」という暗黙のメッセージが含まれているように感じ、心の距離も遠くなりがちであった状況にあって、人間の優しさやあたたかさ、希望を伝えるメッセージを持つこの作品が、現在の状況にふさわしいのではないかと考えた。

この原稿を書いている11月現在、幾度か続いた緊急事態宣言を経て、ひとまず飲食店などの時短営業は解除され、街には以前のような活気が戻りつつある。しかし一方で、また新種のウイルスが

発見された報道もあり、この先どうなるのかは依然として不透明である。このまま状況が収束することを祈りつつ、今回の動画制作や授業を通して気づいたことをまとめておきたい。

なお、本動画は、大阪城南女子短期大学2021年度個人特別研究費を受けて制作したものである。

２．AIチャットボットースナックママよしこ

図１　スナックママよしこ

2021年７月に、洋服の青山のウェブサイトで、「スナックママよしこ[5]」というAIチャットボット（AI：Artificial Inteligence（人工知能）, chatbot：人工知能を利用した自動会話システム）が話題になった。

インターネット上でも、「AI化が進むことでなくなる」といわれている職業と、「AI化が進んでも残る」といわれている職業などの記事をよく見かけるが、保育士やカウンセラー、教師など、対人関係の仕事は、AI化が進んでも残る職種と言われることが多い。スナックのママも、対人の仕事の究極ともいえるものであろう。

ところが、である。そのスナックのママのチャットボットが開発され、公開から２ヶ月で相談件数が累計八万件を超えたという。宮崎市最大の繁華街「ニシタチ（西橘通り）」のママたちを対象に50時間のインタビューを実施し、同市のスナック「華酔亭」のママ、茶圓イツ子さんをモデルとしているそうだ。チャットボット開発の目的は、20代から30代のビジネスパーソンとの接触機会を増やすことであり、相談された悩みの第一位は「人間関係（上司、友人、恋人、家族の順）」、第二位は「将来の悩み（将来の仕事、恋愛、家族の将来）」第三位は「モチベーションの悩み」だったそうである。ページにある画面に悩み事を入力すると、オンラインママのよしこさんが答えてくれる仕組みになっている。

トップページの動画には、「聞き下手の例」の動画などもあり、なかなかためになる内容である。しかし、顎のところに黒い線が入った「オンラインよしこさん」は、学生にはすこぶる不評であっ

た（「ヤバい～！怖い～！」という声が多かった。）

DX（Degital Transformationデジタルトランスフォーメーション；デジタル技術の浸透によって、既存の価値観をくつがえすような根本的な変革が起きること）についてぼやくサラリーマンに、よしこさんが「食べたことないわねえ」「最近やってないわ」など、とんちんかんな返答をする動画もあり、どことなくかわいらしさも漂っている。

また、AIでは代替できない職業にあげられることの多い、カウンセラーについても、AIを用いたセルフカウンセリングの利用が広がっている。2021年10月30日にZOOM開催された、日本ポジティブサイコロジー学会において、AIを用いたセルフカウンセリングについての教育講演があった[6]。関連記事[7]によれば、スマートホンのチャットボット「こころコンディショナー」に悩みを相談する仕組みで、３ヶ月で１万五千人の利用者があったそうだ。

「こころコンディショナー」は大きくわけて二つの流れから構成されており、認知行動療法の考え方を基に考えを整理しながら工夫して先に進んでいく流れ、もう一つは自分の思いや考え、気持ちをただ書き込んでいく雑談の流れがある。一般公開以来の利用状況を見てみると、認知行動療法の考え方を基に心を整理する方法が４分の３、雑談の流れが４分の１の割合だそうだ。もともと不安定な精神状態の人やうつ状態の予備軍でこのままではリスクが高い人の場合、次の支援につなげる新たな試みや自治体との協力もされている。

AIにはできないと思われていた、スナックのママやカウンセラーという仕事も、全部ではないにせよ、一部はAIによって代替可能であり、コロナ渦で孤立していた人々を支えていたことがわかる。このように、どこまでがAIに可能で、どこからが人間にしかできないことかという線引きは、もはや職種というよりは、個々の仕事の中の部分においてグラデーションになっていると考えた方がいいのかもしれない。AIを用いたカウンセリングがそうであるように、深刻な状況にある人にとって、最初の窓口が人間ではなく機械（スマートフォン）であるというのも、心理的な負担を感じずに利用できるメリットもある。そこから先に行政に繋ぐための橋渡しとして、十分な存在価値があるように思える。

一方で、最近「AI読み」と呼ばれる読み方をする若者が増えているそうである。

「AI読み」とは、「AIに東大入試の合格点をとらせよう」という開発に勤しんでいた国立情報学研究所教授の新井紀子さんによる造語で、AI特有の日本語読解の特徴が実は今日の多くの中高生の読み方に当てはまる、という論に基づいているとのことである。AIが文章を読むようにただただ単語を拾っていき、なんとなく知っている文脈に当てはめて、全体の内容を読み取っていくような読み方であるため、結局その文章が全体として何を言わんとしているのかを理解できないそうだ[8]。

たしかに、記述式の問題を出すと、接続詞の使い方が苦手な学生が多いように感じる。普段のコミュニケーションでは、LINEでの一語文、もしくはスタンプで済むために、長い文章を接続詞で繋げ、論理的に書く機会が乏しいと思われる。

もちろん、長い文章を論理的に書くというのはどの世代にとっても難しいので、世代の問題だけ

に限定するのは性急に過ぎるかもしれないが、先に述べたようなAI読みが増えていることも、国語力、理解力が落ちているといわれる一つの要因とする見方もある。

AIがどんどん人間に近づいていく一方で、人間がAIに似てきているというのも、皮肉といえば皮肉だが、AIのよいところをとりいれつつ、人間にしかできないことを深めていけないだろうか、というのが、自分自身についても、学生に対する授業についても、日々考えているところである。

なお、文末に、実習に行った学生を対象に、実習先の施設でのICT利用状況と、ICTを利用した方がいいと思うものについてアンケートを行った集計結果を掲載した（文末表１）。

質問事項は下記の通りである（表の左から右の順）

１．９月の実習先で、担当したこどもの年齢は何歳でしたか？
２．実習先の施設の種類を答えてください。
３．施設で使用していたICTの種類と用途はどのようなものでしたか？
４．ICTの運用でうまくいかなかったことはありましたか？あったと答えた人は具体的にどのようなことがうまくいかなかったのか説明してください。
５．ICTを導入したほうがいいと思うものを挙げてください。

回答は、実習生の立場、視点からのものであり、これがそのまま現状であるとはいえないが、ICTを導入したほうがいいと学生が考えているものには、登園降園記録、体温チェック、午睡の時間、その日の出来事の連絡などがあがっており、すでにいくつかの施設では導入されていることがわかる。

３．授業に関して

２年生のゼミでは、絵本や紙芝居を読む練習をし、自己表現に対する苦手意識を和らげることをテーマにしていたが、年度の前半、感染拡大への考慮から、授業中に大きな声を出させることを極力控えていた。そのため、発声などの練習がむずかしい状況であった。また、もともと人前で何かを表現することが苦手であるという理由で、苦手を克服しようとして筆者の担当するゼミを選んだ学生が多かったため、通常でも、大勢の前で声を出して表現することに対する心理的な壁が厚いという状況があった。

そこで、授業で取り入れたのが、LINEで朗読課題の録音を提出させ、こちらも音声でコメントをつけて返信するという方法である。年間を通して出した朗読課題は下記の通りである。

１．宮沢賢治『銀河鉄道の夜[9]』より一部抜粋（「家」の章）
２．工藤直子「ふきのとう[10]」
３．新美南吉「子どもの好きな神さま[11]」

１に関して言えば、宮沢賢治の独特の文体と語彙が、学生にはややわかりづらかったようである。理解を深めるため、DVDでアニメーション化された作品を鑑賞したが、反応はそれほど大きくなかった[12]。

２の工藤直子の詩は、小学校２年生の国語教科書（光村図書）に掲載されているものである。ひらがなが多いこと、文章自体が短く、内容がわかりやすいことから、学生には読みやすかったようだ。

３の新美南吉の童話も、子ども向けに書かれていることもあって、ひとまず、読むことへの心理的なハードルは下がったようである。たくさんのこどもが登場するため、声の使い分けが難しかったと思われるが、朗読課題の回数を追うごとに、学生の表現力が増していることを感じることができた。

言うまでもなく、保育の現場や家庭で子どもに絵本や紙芝居を読む際は、読み手と子どもの関係性及び実際のこどもの反応や表情を見ながら、ページをめくったり、次の文章を読んだりすること、子どもを話にひきこむための導入の手遊びなどが重要な役割を果たしており、朗読の技術のみを問われるものではない。言語の習得過程に関する研究において、針生悦子は、乳児は、自分の出した音に対して返ってくる音を「言葉」としてとらえ、そこから語彙を学んでいるのであり、一方的に発してこられる音を「言葉」としては捉えていないという研究結果をまとめている[13]。このことは、乳児だけでなく、もうすこし成長した子どもにおいても同様であろう。学生が朗読を練習することで、逆に自己を表現することで頭がいっぱいになり、逆効果になるリスクもある。

だとすれば、朗読のみをとりだして練習することは、保育の現場では意味を成さないのであろうか？

現場における、信頼関係の構築、表情、相手の反応に応えることなどの総合的な技術の重要性を知りつつ、学生に対して朗読課題を課した理由は、「人前で何かを表現することが怖い」、「苦手だ」という意識を少しでも和らげてもらいたいと考えたためである。

録音してLINEで送るということも、苦手な生徒にとっては大変な課題であっただろうが、少なくとも、大勢のクラスメイトの前で朗読するよりもとりかかりやすいのではないかと考えた。

昨年、非常勤講師としてピアノの個別指導にあたる中で、時間は「１人あたり一週間に15分」と短くとも、学生ひとりひとりとピアノという楽器の演奏技術を介して接することが、「表現」に対する壁を壊していくことに対して大きな効果があることを実感していたためでもある。

学生に対して指導した内容は、主に下記の５点である。

① 句読点、場面転換の際の間の取り方
② 会話文の感情のこめ方、役割による声の使い分け
③ 発声、滑舌
④ 擬音語、擬態語の読み方
⑤ 始まりと終わりの空気の作り方

これらの点において、朗読課題を数回こなす中で、学生の技術は飛躍的に向上したと実感している。

読み方についてどこに気をつければいいのかがわかったことで、実際に実習やインターンシップの場で絵本読みをする際にも、以前ほど緊張しなくなったという学生の感想もあった。また、緊張すると早口になるのは、わたし自身も含め多くの人に覚えがあることだと思うが、録音した自分の朗読を客観的に聴くことで、学生が自分自身の癖に気づくことができるのも、録音を用いた指導の良い点であると考える。

また、特別講師授業として、ボイストレーナーの松本英子氏を迎え、合同ゼミの形式で授業をしていただいた。感染対策に十分配慮した上で、言葉や声を使わない身振りだけでの伝言ゲームや、滑舌をよくするコツやトレーニングなど、密度の濃い内容であった。入学前からCovid-19の感染が拡がり、閉塞感と不安とやり場のない不満のなかで学生生活を過ごしてきた現２年生にとって、自分の殻を破るささやかなきっかけとなったとすれば幸いである。

授業後の学生の感想からは、自分たちが思っていたよりも大きな声が出せたことへの驚きや喜びが綴られていた。

AIを用いたカウンセリングにもいえることだと思うが、そもそも人前で表現することが苦手であったり、対人に対しての心理的な壁が厚かったりする学生に対しては、ICTを利用した指導も、最初の橋渡しとしては有効な面があるのではないだろうか。まずは機械に向けて、その向こうにいる人間を意識しつつ、すこしでも練習したという自信がつくことで、実際に人前で表現する際のハードルが下がる可能性がある。

４．言葉が可視化できる音楽朗読、「オケどく[14]」

最近、「オケどく」という朗読が、話題を呼んでいるそうだ。第一線で活躍する俳優や音楽家による音楽朗読である。オケどくを制作したきっかけについて、ウェブサイトには、緊急事態宣言に

図２　オケどくのウェブサイトから一部抜粋

よる休校中、家庭で子供に勉強を教えることの大変さに親たちが疲弊したことが、オケどくの開発に繋がったと書かれている。

題材は、宮澤賢治「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」「やまなし」、新見南吉「ごんぎつね」などの作品である。ウェブサイトでは一部視聴もできるので、視聴していただくとどんなものか伝わるのではないかと思う。

視聴してみると、一部始終音楽が鳴っているのではなく、朗読の要所要所で効果的に音楽が用いられていることがわかる。

これが、「国語の教科書を読んでも意味がわからない」という子どもや、海外で日本語教育を受けている子どもたちに、すんなり受け入れられているようである。オケどくの使い方としては、以下のような使い方が紹介されている。

① じっくり聴いてみる。
② 一緒に音読練習してみる。
③ アタマに浮かんだことをカタチにしてみる

③の「アタマに浮かんだことをカタチにしてみる」というアウトプットにおいては、音楽や、図画工作、理科、パフォーミングアーツなど、さまざまな教科を超えた融合が紹介されている。

たとえば、オケどくのブログ（https://ameblo.jp/okedoku）では、NY 在住で、アメリカ人の父と日本人の母を持つミラちゃんが、「やまなし」の朗読を聴きながらペインティングしている様子を観ることができる。

『週刊 NY 生活』2021年４月17日号の記事を見ると、都内の小学校での反応が記されている。

「BGM付音読教材　オケどくを開発
朗読に音楽のBGMがついていたらどうか。そんな発想から生まれた音読教材が「オケどく」だ。昨年末に、東京都内の小学校と協力して作ったもので、世界中の補習教材として使われている国語教科書（光村図書）の４年と６年に出てくる題材を扱っている。『脳トレ』で知られる東北大学の川島隆太教授が推奨する音読をこのメソッドで実際に通常学級で聴いてみてもらったところ、実際に授業で学習した単元にもかかわらず３人に１人が『教科書を読むより理解できた』との声。さらに60％の子供達は『情景が浮かんだ』『心情がわかった』など、自分がわかっていなかったことに気づけたことに驚いた感想が多数寄せられたという。
教材を企画開発した高木悠凪さんは『坂東玉三郎や渡辺えりなどの舞台音楽をつくっている音楽家と、TV ドラマ『相棒』に出演している俳優の臨場感溢れる作品を楽しみながら日本語力を身につけていってもらえたら幸い』と話す。

詳細はhttps:www.okedoku.com」（オケどくウェブサイトに記載されている記事を引用）

音読教材に関して、「教科書を読むよりも理解できた」と答えた生徒が３人に１人の割合であり、さらに60％の子供たちが、すでに学習した単元であっても、音楽朗読を聴くことで、より深い学びを得られたと回答していると書かれている。もちろん、実施校での調査結果にすぎないため、これをもってすべての小学生に該当するということはできないが、文字から想像の世界を立ち上げるよりも、耳から聴いた音によって情景を想像するほうがたやすいと感じる子どもが多い可能性がある。また、特別支援学級でも効果があるのではないかと言われているそうである。

簡単に、「世代の違い」「国語力の低下」と言ってしまえるのかどうか心許ないのだが、オケどくのウェブサイト上でも言及されている「説明を説明しなければならない」ことに対する疲弊は、短大の授業でも痛感することである。

「Z世代（国によりいつからZ世代と見なすかは異なるが、一般的に1990年代以降に生まれた世代をさす。幼少期から電子機器やインターネット、SNSを含むソーシャルメディアの存在を前提とした生活をしているデジタルネイティブ世代という意味でここでは使用する）」と呼ばれる学生たちと、育ってきた環境が大きく違うために、理解しあうために、説明の説明から始めなければならないことが多い。また、さまざまなメディア（媒体）によって人間の身体や、身体感覚、時間感覚も変容する。いまの子どもたちは、You Tube すら、そのまま見続けることに苦痛を感じることが多いらしく、早送りしながら観ていることも多いときく。20年以上前に、インターネットを使い始めた当初は、ダイヤルアップで繋がるのをのんびり待つのが普通だったが、いまではインターネットがすぐに繋がらないとイライラする自分がいる。時間がかかること、すぐに答えが見えないこと、に対する許容量は、大人も含めて小さくなっているようにも思われる。

電話が苦手な学生が多いのも、子どものころから家族全員が携帯電話を持っており、親宛に自宅にかかってきた電話を取り次いだり、友人の親に電話の取次ぎをお願いしたりする経験がほとんどないことを考えれば無理もないことのように思う。単純に経験が少ないのだから、苦手意識を持つのは自然なことだと考えられる。

一方で、彼女たちの携帯電話を操る速さと巧みさには驚かされることが多い。わたし自身は、ちょうど大学時代に、授業で発表する際のレジュメが手書きからPCに移行しつつあった世代なのだが、初めのうちは、手で書いたほうが明らかに速いほど、キーボードを叩く指はぎこちなく、苦労して打った文書を保存し忘れたり、知らないうちにキーボードを押してしまったりして、消えてしまうことも多かった（これはいまでも時々ある）。

しかし、彼女たちは、手で書くよりもだんぜんiPhoneで打つほうが速いのである。実際、学生から授業課題をiPhoneでうち、LINEで送ることを提案され、取り入れてみたところ、手書きのときは、がんばっても数行しか書かない生徒が、びっしりとした長文を送ってきた。彼女曰く、「そのほうが文章が浮かびやすい」のだそうだ。ほかにも、「長文のときはiPhoneで打ち、LINEもしくは

Googleフォームでの提出にしてほしい」という意見もちらほら聞こえてきた。

また、小学生にオンラインで英会話を教えている際も、小学２年、３年生でも、画面の共有や、いまの画面をスクリーンショットで送ってくるなどのことは朝飯前であり、わたしのほうがまごまごして教えてもらうこともしょっちゅうであった。

５．学生の動画制作－iMovieを使用して

以上のような現状を踏まえて、２年生ゼミでは、前期の終盤からは自作の紙芝居で動画をつくり、編集してもらうことにした。

iPhoneでiMovie（Apple社の製品にプリインストールされている動画編集のアプリケーション）というアプリを用い、自分たちで書いた紙芝居を撮影し、音声や効果音を加えて編集してもらっている。

この原稿を書いている11月現在、まだ作業途中であるが、来年３月には公開の許可が得られた学生の作品は、チャンネル[15]にアップロードする予定である。

紙に自分たちで絵を描くところから始める学生もいれば、インターネット上のフリー素材を印刷して、切って紙に貼り付ける学生もいる。物語も、作業を始めた頃とは違うストーリーになりつつあるようである。

物語作成のためのトレーニングとして、フィンランドの小学生向け国語教科書の例題を使用した[16]。フィンランドでは、小学一年生から、物語を創らせ、書かせる課題が多い。また漫画のようなイラストが豊富で、目で見ても楽しい教材となっているところが特徴的である。また、問題に正解がなく、子どもと教師や大人が一緒に答えを考えるようになっている（図３）[17]。

図３　フィンランドの教科書をもとにした教材

６．将来的なICT技術導入の可能性－遠隔合奏技術「SYNCROOM」

昨年、対面によるレッスンができなくなったことで、ZoomやSkype、LINEのビデオ通話を用いた学外でのレッスンをオンラインでする機会も増えた。また、とりわけ2020年、2021年という、対面の演奏やセッションの場が激減した２年あまりの間に、YAMAHAが独自に開発した遠隔合奏技術アプリケーション、「SYNCROOM[18]」の改良により、プロ、アマチュアを問わず、国境を越えてセッションを楽しむ音楽愛好家も急増した。現在では、SYNCROOMは、PCのみではなく、iPhoneでも無料で使用することが可能である。

SYNCROOMは、オンライン上の空間に部屋をつくり、公開にするか、非公開にするかを選ぶことができる。自分の担当楽器、ジャンルなどを自己紹介ページに書き、興味があるセッションなどを行っている部屋を見つけたら、その部屋に参加する仕組みである。SYNCROOMは音声のみで画像はないため、Zoomの画像と併用して使用する場合は、Zoomの音声を消去し、SYNCROOMのほうで出力される音を使用する。YAMAHAのページでどのように表示されているのか、参考に文末にスクリーンショットを掲載する（図４）。

今回の朗読課題の指導には、SYNCROOMは用いなかったが、音楽においては、今後SYNCROOMの改良がさらに進み、遅延がほとんどない状態になれば、将来的にSYNCROOMとZOOMを併用した授業も選択肢の一つにはなり得ると考える（すでに行っている音楽講師も存在する）。

また、ICTを用いた個人指導については、2007年頃から精力的に展開された、音楽教育についての深見由紀子の一連の研究が示唆に富む[19]（文末表２）。

深見の研究は、教員養成系の大学のピアノ指導で、個人指導の時間が十分にとれないという悩みを、ICTを用いて補完しようとしたもので、15年近く経った現在でも、参考になる点が多い。

図４　YAMAHA公式ページより SYNCROOMのページ（2021年11月27日取得）。

このように、現在の公開ルーム、非公開ルームの数、公開ルームの概要がわかるようになっている。非公開ルームは、非公開設定でルームを作り、メンバーだけにパスワードとルーム名を教えて使用する。筆者も数回利用したことがあるが、日本とNYでも、ものすごく速いテンポの曲でなければ、セッション

ができるぐらいの遅延レベルであった（ただし、相手の音はすこし遅れてきこえる）。

また、昨年夏に、NY在住の音楽家の子ども向けジャズ教育のカリキュラムに参加したのだが、そういった研修や世界的なミュージシャンによるオンラインレッスンの機会も、2020年から急速に増えている。この状況だからこそ受講できた貴重なレッスンやワークショップも多い[20]。

7．結びにかえて

以上、Covid-19の影響下での、ICTを利用した「言葉」「表現」について考察したことをまとめた。感染拡大により、機器の導入や、オンライン化が急速に進んだことは事実であるが、今後感染が収束した後も、教育現場におけるICT利用が減少するという可能性は極めて低い。

むしろ、Zoomによる会議やリモートワークなどが増えたことで、対面かオンラインかを選べるような場面が増えていくことが容易に予想される。

もちろん、機器の導入に人材が追いついておらず、あちらこちらで使われないままの電子機器が埃をかぶっているという話もよく聞くのだが、人類の歴史においては、新しい技術によって、新しい選択肢、新しい発想が切り拓かれてきたことも事実なのではないだろうか。

陳腐な結論にはなるが、新しいものに対して柔軟な姿勢を持ちつつ、古くから伝承されてきた素晴らしいものを大切にし、伝えていくことでしか、未来を創っていくことはできないのではないかと思う。

つい先日、レッスン後に、よくご家族と食事もご一緒させていただいている小学２年生のピアノの生徒さんと食事をする時間がとれず、謝ったときに、「いっしょにごはんを食べる時間がないときは、オンラインでいっしょにごはんをたべればいいんじゃないかな？いっしょにたべられないとき、せんせいがなんかいもかなしいきもちになるのはもったいないから」といわれ、目から鱗が落ちる思いがした。

時間を調整できない申し訳なさにとらわれているだけだったわたしに対して、七歳の生徒さんは、「いっしょにすごすにはどうしたらいいか？たのしい時間をすごすにはどうしたらいいか？」という未来にまなざしを向けているのである。

いつもにまして先行きが不透明な時代ではあるが、だからこそ、いろいろな可能性に満ちていて面白い、と捉えることもできる。昔からピンチはチャンスという言葉もある。この状況下で初めて、自分にとってほんとうに大切なもの、人生で大切にしたいものと向き合えたという人もたくさんいる。

希望がないように思える状況であっても、ひとつでも、ふたつでも、未来の可能性に繋がるものを探しだし、繋げていく努力をしたい。本動画が、時代の転換期において、もがいた足跡の一つとしてささやかでも何かを伝えられることを願う。そして、何らかの形で未来へと続く水脈の一部となれば幸いである。

謝辞

本動画は、大阪城南女子短期大学2021年度個人特別研究費を受けて制作したものである。

今年の４月から、應典院主監の齋藤佳津子さんのお声がけにより、児童文学研究者の齋藤壽始子先生のご自宅で、絵本や児童文学の講義を聞かせていただいている。お忙しいところ、貴重なお時間を割いて講義をしてくださっている壽始子先生、ご縁を繋いでくださった齋藤佳津子先生に深く感謝申し上げたい。齋藤壽始子先生は、新美南吉の研究者でもいらっしゃり、本動画の完成をとても楽しみにしてくださっている。

また、突然お願いした動画の絵画を快くひきうけてくださった柴田精一先生、情景が目に浮かぶような音楽を作曲し、演奏してくださった河野多映先生、いつも丁寧なヒアリングをもとに作品を仕上げて下さるウェブディレクターの林トモコさんにも感謝を伝えたい。

“オケどく”については、NYでレッジョ・エミリア・アプローチの実践をされているMayu Yabe Barryさんにご教示いただいた。Mayuさんには、レッジョ・エミリア・アプローチの実践についてインタビューさせていただき、授業でも動画を利用させていただいた。心から感謝したい。

本稿にも登場するすみれさんとご家族に。

いつも新しい発見と学ぶ喜び、楽しい時間を共有してくださっていることに御礼申し上げたい。

最後に、ちいさいころ喘息持ちで本の虫だったわたしに、思う存分読書と勉強をさせてくれた両親に、心から感謝します。

表１　実習先でのICT使用状況（対象２年生84名回答、2021年９月実施アンケート）

【保育園】

担当したこどもの年齢（歳）	施設の種類	施設で使用していたＩＣＴの種類と用途	ＩＣＴの運用でうまくいかなかったこと	ＩＣＴを導入したほうがいいと思うもの
5	保育園	なし		小学校ではいろいろ使えるかもしれないが、保育園にＩＣＴはなくてもいいかもしれない。
5	保育園	なし		なし
3	保育園	保護者：タブレットで登園降園記録		朝食べたものや何時に寝たかなど、家庭での様子を携帯電話で保育園に送る
0~1	保育園	なし		子どもの入眠チェック、排泄チェックの記録
1	保育園	職員：タブレットで出席確認		なし
3・4	保育園	なし		なし
4	保育園	保護者：タブレットにこどもの体温を入力		
２・３	保育園	なし		出席・健康管理表
２・３	保育園	職員：タブレットで動物の鳴き声を流していた（保育活動）		連絡帳・ピアノ
2	保育園	なし		なし
2	保育園	なし		こどもたちの記録・日案・保育者の日誌
2	保育園	職員：出欠確認、運動会の音楽		連絡帳
０・２	保育園	保護者：タブレットとiPhone で登園した際にＱＲコードを読み取る→記録		出勤簿
1・4	保育園	なし		なし
2	保育園	なし		なし
1	保育園	職員：写真撮影、運動会の音響、資料作成		なし
3	保育園	職員：保護者との連絡、体温の記録、食事量や排泄の回数の管理、週案		英語教室の音楽（ラジカセが動かないことがよくあるため、タブレットにすればよいと思う。）また、週案はPCだったが、反省や振り返りは手書きだったため、それもPCにすればよいと思った。
0	保育園	なし		お帳面、職員どうしのやりとり
3	保育園	保護者：登園降園記録		保護者への連絡、一日の出来事、子どもの健康状態の記録はICTを使用すればいいと思う。
4	保育園	職員：タブレットで出欠、体調管理		なし
2	保育園	なし		なし
1・2・3・5	保育園	保護者と職員：保護者の送り迎え記録・インターホン		出席・欠席の確認
2・4	保育園	なし		なし
5	保育園	なし		月案・週案
３・４	保育園	なし		運動会の練習の立ち位置などをタブレット等で把握できればよい（紙が数十枚とあって大変そうだった）
2	保育園	なし		なし
4	保育園	なし		なし
0	保育園	職員：出席、体調記録、連絡事項、シャワーをするかどうかなどの記録		なし
3	保育園	保護者：タブレットで登園記録		なし
2	保育園	なし		なし
0・1	保育園	職員：登園・降園のチェック・午睡の時に乳幼児突然死症候群を防ぐためのチェック		お帳面
3・4・5	保育園	職員：PC(日誌、反省、振り返り) 保護者：タブレットで登園降園記録		とくになし
0	保育園	なし		なし
0・1	保育園	なし		なし
4・5	保育園	職員：出席記録、写真撮影		保護者との連絡、一日の出来事の記録
4	保育園	保護者：体温記録		なし
0・2	保育園	職員：登園降園記録（QRコード読み取り）		出勤簿
2・4	保育園	職員：タブレット（乳児の心拍や寝返りをした回数		なし
4	保育園	なし		保護者とのコミュニケーション
1・4	保育園	なし		数字や文字を教える際にタブレットを使えばよいのではないか。

【幼稚園・認定こども園】

担当したこどもの年齢（歳）	施設の種類	施設で使用していたＩＣＴの種類と用途	ＩＣＴの運用でうまくいかなかったこと	ＩＣＴを導入したほうがいいと思うもの
5	幼稚園	なし		勉強
4	幼稚園	保護者：登園確認（園に入る前にタブレットでクラス・名前・体温を入力）		保育記録
4	幼稚園	職員：iPhoneで午睡や今日の出来事を保護者とやりとり		午睡の時間と起床時間の記入
5	幼稚園	なし		児童：mTiny（幼児用教材・プログラミングキット）巻資料参照
4	幼稚園	保護者と職員：タブレットで登園時のチェック		連絡帳
3・4・5	幼稚園	なし		出席確認・午睡時間
3	幼稚園	iPhoneで写真撮影		造形
4・5	幼稚園	なし		
5	幼稚園	職員：午睡の際の睡眠導入にタブレットを使用		体温チェック
4 5 3	幼稚園 幼稚園 幼稚園	職員：タブレットで園児・職員の出欠記録、一日の設定保育の内容入力・放課後残る児童の把握 していない 職員：乳児クラスの保護者が登園したらタブレットで2階の保育士に知らせる		出欠確認
3	幼稚園	なし		なし
3 4 5	幼稚園 幼稚園 幼稚園	職員：乳児クラスの保護者が登園した際タブレットで２階の保育士に知らせる。 職員・保護者：体温の確認の際にモニターに近づくと表示される なし		出欠確認・検温カード
1	認定こども園	保護者：タブレットに登園降園情報入力		
3	認定こども園	職員：会議の際タブレットを使用		
3	認定こども園	なし		出欠確認
1	認定こども園	なし		午睡チェック・アレルギーの確認
3・4・5の異年齢保育 4 3	認定こども園 認定こども園 認定こども園	延長保育の申請（各園がタブレット）、年長児が折り紙を折るときにYou tubeを使用・インカムで職員同士の連絡 保護者：タブレットに登園記録 保護者：タブレットでお迎え記録		保護者へのお便り（保護者のみがログインできるようにし、園でのこどもの様子を動画などで配信したりする） 退園するときの呼び出し 月誌・連絡事項
1 2～6 3	認定こども園 認定こども園 認定こども園	保護者：タブレットで出席記録 職員：タブレットで出席確認と体温記録 なし 保護者：タブレットで登園降園記録	たまにしか来ない保護者が使い方がわからずこどもに聞いていた。	週案 なし 出欠確認

【施設】

担当したこどもの年齢（歳）	施設の種類	施設で使用していたＩＣＴの種類と用途	ＩＣＴの運用でうまくいかなかったこと	ＩＣＴを導入したほうがいいと思うもの
小1～高2	児童養護施設	児童：（タブレット、ＰＣ）You Tube やゲーム	こどもとの身体接触の	体調の記録、食事の完食具合、排泄の記録、テレビやタブレットの利用時間
２～6	児童養護施設			
２～6	更生療育センター	なし		わからない
6～12	児童養護施設	なし		なし
小２～小６	児童養護施設	児童：（ＰＣ，タブレット）ゲーム		仕事の管理、こどもたちの情報管理
２・小	児童養護施設	児童：（ＰＣ，タブレット）童謡・アニメ		なし
中高・小中	児童養護施設	なし		なし
６・１０・１１・１４・１５（女子）	児童養護施設	ほとんど見かけなかった		こどもの体調管理
小５～高３	児童養護施設	なし		なし
4～18	児童養護施設	なし		なし
3~18	児童養護施設	職員：書類作成や児童と遊ぶ際にiPadを使用。		
小５～高３	児童養護施設	なし		なし

表２　音楽教育の分野におけるICT関連の論文・文献一覧表

論文					
著者	**研究協力者**	**タイトル**	**刊行年**	**雑誌**	**備考**
深見友紀子	中平勝子・赤羽美希・小林田鶴子	保育者養成におけるピアノeラーニングに向けて～学生が演奏映像を自主的に提出する試み～	2007	『京都女子大学発達教育学部紀要』003	参考事例 ・大阪芸術大学通信学部URL ・Academy of Art UniversityURL ・ヤマハ　ミュージックレッスンオンラインURL
深見友紀子・中平勝子	赤羽美希	ピアノ弾き歌い実技指導における練習映像提出併用の効果	2008	『京都女子大学発達教育学部紀要』004	引用文献・参考文献多数あり
中平勝子・赤羽美希・深見友紀子	なし	ブレンデッドラーニングによるピアノ弾き歌い指導のためのeラーニングコンテンツの設計	2008	JSiSE Research Report vol23 no.1	参考文献多数あり
深見友紀子・中平勝子・赤羽美希	なし	ピアノ弾き歌いにおける遠隔・日対面指導の効果と課題	2009	『京都女子大学発達教育学部紀要』005	参考文献多数あり
深見友紀子・中平勝子・赤羽美希・樽方攝子	なし	ピアノ弾き歌い学習におけるeラーニング教材の効果	2010	『京都女子大学発達教育学部紀要』006	参考文献多数あり。 ◆参考URL「教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース」 http://oberon.nagaokaut.ac.jp/kwu/piano/
	なし	ブレンデッドラーニングを取り入れたピアノ弾き歌い指導の改善	2010	『日本教育工学会論文誌』34	ショートレター
中平勝子・赤羽美希・深見友紀子	なし	ADDIEプロセスを適用した注釈付楽譜集の作成ー『子どもの弾き歌いベスト５０を例にー	2011	『京都女子大学発達教育学部紀要』007	
中平勝子・赤羽美希・深見友紀子		ピアノ弾き歌い教育の質保証	2012	『日本教育工学会論文誌』36（3）	
深見友紀子・中平勝子・赤羽美希	なし	携帯端末を利用した演奏映像提出の現状と今後の課題	2012	『京都女子大学発達教育学部紀要』008	
共同研究	深見友紀子・佐藤和紀・森谷直美・中平勝子・堀田龍也	小学校音楽科リコーダー学習における一人一台端末を活用した家庭学習が技能に及ぼす効果	2017	『日本教育工学会論文誌』41	
共同研究	小栗典弘・長澤順・岸本智典・青木童彦	保育者養成課程におけるICTを用いたピアノ教育の効果ー介入群と統制群の比較実験を通した検証ー	2018	『教育実践センター研究紀要』第6号	バーグマン、ジョナサン、アーロン・サムズ 2015『反転学習ー生徒の主体的参加への入り口』上原裕美子　訳　東京大学大学院情報学環反転学習社会連携講座監修　オデッセイコミュニケーションズ
小澤俊太郎		ICT活用によるピアノレッスンが抱える課題の解決	2019	『埼玉純真短期大学研究論文集』第12号	

著書					
著者		**タイトル**	**刊行年**	**出版社**	**備考**
深見友紀子	なし	音楽科教育とＩＣＴ	2019	音楽之友社	

その他					
コーディネーター 深見友紀子		楽器メーカー５社に聞くー音楽教育と電子テクノロジーの過去/現在/未来	2014		特集：音楽教育と電子テクノロジーー「共有」と「発信」を目指して
中平勝子・赤羽美希・深見友紀子	なし	ブレンデッドラーニングを取り入れたピアノ弾き歌い指導の改善	2010	『日本教育工学会論文誌』34	ショートレター
企画・司会 深見友紀子		学校音楽教育の未来とICT活用	2020	『音楽教育学』第49-2	共同企画Ⅷ　パネルディスカッション ・当日のスライド資料（見られず）。 ☆ICTの定義　cf. 文部科学省「教育の情報化に関する手引」

[1] ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）。
よく似た用語であるIT（Information Technology．情報技術）にCominication（通信）が含まれることで、情報処理のみならず、コミュニケーションや知識の共有に重点をおいた概念といえる。本研究でICTと用いるときは、PCのみならず、スマートフォンやタブレットも含めた情報通信、伝達、知識の共有やサービスを想定している。

[2] 劇団ふたごぼし『銀河鉄道の夜』全４話
https://www.youtube.com/watch?v=F2-PCb1ucmI（2021年11月30日）
原作：宮沢賢治　日高由貴：シナリオ構成・作詞・歌・クラリネット・朗読 上村美智子：作曲：編曲・音楽構成・演奏・コーラス・朗読

[3] 動画チャンネル「おはなしのおうち（House of Stories）」
https://www.youtube.com/channel/UC-oCh-Ouj3Dv0bLU2JTCWVw（2021年11月30日）
「手ぶくろを買いに」
日高由貴：朗読・クラリネット、河野多映：作編曲・ピアノ、柴田精一：、林トモコ：動画編集、松本英子：朗読指導

[4] 新見南吉「手ぶくろを買いに」1943年。
南吉の死後刊行された童話集『牛をつないだ椿の木』大和書店 1943年（昭和18年）に所収。

[5] スナックママよしこ
https://www.y-aoyama.jp/campaign/chat_bot/snack.html

[6] 第10回日本ポジティブサイコロジー学会（
http://jphp.jp/shukaisemi10.html（2021年11月30日）
教育講演①「AIを用いたセルフカウンセリング」
演者：大野　裕　（一般社団法人認知行動療法研修開発センター理事長）
座長：佐久間　啓（あさかホスピタル院長）

[7] 「スマートフォンで心を整える～コロナ禍、AIセルフカウンセリング～」“Dr.純子のメディカルサロン”
https://medical.jiji.com/topics/2112

[8] 弘田陽介（話し手）棚澤明子（聞き手）．いま、子育てどうする？　感染症・災害・AI時代を親子で生き抜くヒント集35．彩流社．2021年．

[9] 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」は、第一稿から第四稿まで、数回にわたって大幅な手直しが行われている。未定稿のまま、1933年の賢治の死後、1934年から35年にかけての文圃堂の全集を初め、数多くの出版社から全集が刊行され、多くの人々によって調査、研究がなされてきた。第三稿まで登場し、重要な役割を担うブルカニロ博士は、第四稿においては削除されている。
朗読課題にもちいたのは、清川あさみによる絵本『銀河鉄道の夜』（リトル・モア、2009年）の中の一部抜粋。筋書きは第四稿によるもので、ブルカニロ博士は登場しない。

[10] 工藤直子．ふきのとう．小学校国語教科書（2年生）．光村図書．書下ろし．

[11] 新見南吉．子どもの好きな神さま.新見南吉/作,渡辺洋二/絵,にっけん教育出版社．2004年.

[12] 藤城清治の影絵・演出によるもの（出演：風吹ジュン, 神津はづき、販売元バップ、2020年9月）。

[13] 針生悦子．赤ちゃんは言葉をどう学ぶのか．中央公論新社．2019年.
乳児の言語習得過程、バイリンガル家庭での言語習得、外国語の習得などに関する最新の調査結果がまとめられている。非常に興味深い内容である。

[14] オケどく
https:www.okedoku.com（2021年11月30日）
企画・制作/高木悠凪、会田桃子/作曲・バイオリン、三枝伸太郎/作曲・ピアノ、鈴木崇朗/バンドネオン、島津由美/チェロ、小西遼生/朗読、深沢敦/朗読、MAO　TAKEUCHI/表紙絵、Oliver Hora/表紙絵、菊地健太郎/録音・音響編集、遠藤真司・小野澤美明子/監修。

[15] 動画チャンネル「おはなしのおうち（House of Stories）」
https://www.youtube.com/channel/UC-oCh-Ouj3Dv0bLU2JTCWVw（2021年11月30日）

[16] ハンネレ・フオヴィ、マルック・トッリネン、メルヴィ バレ他著、北川達夫翻訳『フィンランド読解教科書－フィンランド読解メソッド　4つの基本が学べる日本語翻訳版』経済界、2008年。

[17] 岩竹美加子『フィンランドの教育はなぜ世界一なのか』新潮社、2019。

[18] YAMAHA SYNCROOM
https://syncroom.yamaha.com/about/（2021年11月30日）

[19] 深見氏の研究については、山田千智先生にご教示いただいた。

[20] このカリキュラムに関しては拙稿「こころのなかにうたがあるよーアメリカ合衆国における子供向けジャズ教育カリキュラムの一例」大阪城南女子短期大学研究紀要第55巻、2021年3月、133-144参照。
大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学レポジトリでも公開されている。https://jonan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1021&item_no=1&page_id=13&block_id=37（2021年11月30日）

引用・参考文献（著者五十音順）

・岩竹美加子．フィンランドの教育はなぜ世界一なのか．新潮社．2019.
・遠藤 利彦 , 佐久間 路子 , 徳田 治子 , 野田 淳子．乳幼児のこころ　子育ち・子育ての発達心理学．有斐閣.
・工藤直子．ふきのとう．小学校国語教科書（2年生）．光村図書．書下ろし.
・新美南吉．牛をつないだ椿の木．大和書店．　1943年.（初出は雑誌『少国民文化』1943年。日本少国民文化協会編．少国民文化．1943年.）
・新見南吉．子どもの好きな神さま．新見南吉/作,渡辺洋二/絵,にっけん教育出版社．2004年.
・針生悦子．赤ちゃんは言葉をどう学ぶのか．中央公論新社．2019年.

・ハンネレ・フオヴィ,マルック・トッリネン ,メルヴィ バレ他著,北川達夫翻訳 . フィンランド読解教科書－フィンランド読解メソッド 4つの基本が学べる日本語翻訳版. 経済界. 2008年.
・弘田陽介（話し手）棚澤明子（聞き手）. いま、子育てどうする？ 感染症・災害・AI時代を親子で生き抜くヒント集35. 彩流社. 2021年.

（ひだか ゆき：大阪城南女子短期大学 講師）